

ウクライナと世界のための平和アジェンダ

——ウクライナ平和主義者の会合で採択された
平和主義運動の声明

Y・シエリアジェンコ

私たちウクライナの平和主義者は、平和的手段による戦争の終結と、良心的兵役拒否の人権を守ることを要求し、その実現に向けて努力する。

戦争ではなく、平和が人間の生活の規範である。戦争は組織的な大量殺戮であり、「殺すな」は私たちの侵すべからざる義務である。今日、あらゆるところで道徳的指針が失われ、戦争や軍隊に対する自滅的な支持が増加している。私たちにとっては良識を失わず、非暴力的な生き方に真摯に向き合い、平和を築き、平和を愛する人々を支えることがとりわけ重要である。

国連総会は、ロシアのウクライナに対する侵略を非難し、ロシアとウクライナの紛争の即時平和的解決を求め、紛争当事国は人権と国際人道法を尊重しなければならぬと強調した。私たちはこの立場を共有する。

完全に勝利するまで戦争を続け、人権活動家の批判を蔑ろにする現在の政策は容認できず、これを改めなければならぬ。必要なのは、停戦、和平交渉、そしてこの紛争の双方でなされた悲劇的な過ちを正すための真剣な取り組みである。戦争の長期化は破滅的で致命的な結果をもたらし、ウクライナだけでなく、全世界の社会と環境に対する破壊をなし続けている。遅かれ早かれ当事国は交渉のテーブルに着くだろう。耐え難い苦しみと疲弊のプレッシャーの後の決定ではなく、外交手段を選択することによって終わらせるのが最良の方法である。

いかなる戦争も軍隊の側につくのは間違っている。平和と正義の側に立つことが必要である。自衛は、非暴力、非武装の方法で行なうことができ、またそうすべきだ。残忍な政府は違法であり、領土の完全な支配や征服という幻想的な目標のために人々を抑圧し殺戮を行なうことを正当化するこ

とは出来ない。いかなる者も、他人の不正行為の犠牲者であると主張することによって、自分の不正行為に対する責任を逃れることは出来ない。誤った犯罪的行為によって、交渉が不可能で、自滅を含むいかなる犠牲を払ってでも破壊しなければならぬとされる、敵についての神話を作り出すことを正当化することはできない。

平和への希求は、すべての人の自然な欲求であり、その表明を、架空の敵との誤った関連づけで罰することは出来ない。

ウクライナにおける良心的兵役拒否の人権は、現在の戒厳令下はいうまでもなく、平時においてさえも国際基準に従って保障されてこなかった。国家は、国連人権委員会からの勧告や民衆からの抗議に対して、恥知らずにも何十年もこれを無視し、現在もまともな対応を避けている。

市民的及び政治的権利に関する国際規約にあるように、戦争やその他の公的緊急事態の時でさえ、国家はこの権利を剥奪することはできない。しかしウクライナの軍隊は、兵役に対する良心的拒否という普遍的に認められた権利を尊重しようとせず、ウクライナ憲法の直接規定に従って、動員による強制的兵役を代替の非軍事職務に置き換えることさえ拒否しているのである。こ

のような人権を軽視したスキャンダラスな行為は、法の支配の下ではあつてはならないことである。

国家と社会は、戦争に従事することを拒否した場合の脅迫と刑事罰、一般市民を強制的に兵士にする政策に見られるウクライナ軍の独裁と法的二ヒリズム（注：法律を無視すること）に終止符を打たなければならぬ。そのため市民は、危険から逃れることも、教育、生活手段の確保、仕事のための重要な必要性があつたとしても、国外に出ることはもちろん、国内を自由に移動することさえ出来ない。

世界の政府と市民社会は、ウクライナとロシアの紛争、およびNATO諸国、ロシア、中国間のより広い敵対関係の渦に巻き込まれ、戦争の惨劇の前には無力であるように見える。核兵器による地球上の全生物の破壊という脅威でさえ、狂った軍拡競争に終止符を打つことはできなかった。

地球上の平和のための主要機関である国連の予算はわずか30億ドルだが、世界の軍事費はその数百倍で、2兆ドルという途方もない額を超えてしまった。大量殺戮を組織し、殺人を強要する傾向から、国民国家は非暴力による民主的統治や人々の生命と

自由を守るといふ基本的機能を果たすことができないことが証明された。

ウクライナや世界における武力紛争の激化は、既存の経済、政治、法制度、教育、文化、市民社会、マスメディア、指導者、科学者、専門家、親、教師、医学者、思想家、芸術家、宗教家が、国連総会で採択された「平和の文化に関する宣言と行動計画」にある非暴力の生き方の規範と価値を強化する義務を十分果たしていないことに起因していると、私たちは見ている。

平和構築の義務が軽視されているのは、そこに時代遅れで危険な慣行があり、これをやめさせなければならない。それは軍事的愛国主義教育、強制的兵役、体系的な平和教育の欠如、マスメディアによる戦争のプロパガンダ、NGOによる戦争支援、平和に対する人権の完全実現と、良心的兵役拒否を主張する一部の人権擁護者の消極的態度などである。私たちは、関係者に平和構築の義務を想起させ、これらの義務の遵守を断固として主張していく。

私たちは、殺害を拒否する人権を支持し、ウクライナ戦争と世界のすべての戦争を止め、地球のすべての人々のために持続可能

な平和と発展を確保することを、私たちの平和運動と世界のすべての平和運動の目標に掲げる。

これらの目標を達成するために、私たちは戦争の悪と欺瞞について真実を伝え、暴力のない、あるいは暴力を最小限に抑えた平和な生活についての実践的知識を学び、教え、困っている人々、特に戦争や不当な軍事支援や戦争参加の強制によって影響を受けた人々を支援するのである。

戦争は人類に対する犯罪である。したがって、我々はいかなる戦争も支持せず、戦争のあらゆる原因を取り除くために努力することを決意する。

（ユリイ・シェリアジエンコ／「ウクライナ平和主義運動」事務局長）

（2022年9月21日・国際平和の日にて）
（翻訳・細井明美）